



つくばみらい市音頭で一体感 みらいフェスタ 2017 開催

市商工会青年部が主催する「みらいフェスタ 2017」が8月5日に開催されました。この日はさまざまな地元の飲食店などが出店。キャラクターショーやお笑いライブが会場を盛り上げました。また、会場の中央にはやぐらが生まれ、夕方には盆踊りの輪ができました。みらいフェスタでは初となる「つくばみらい市音頭」が流れると、明るい曲調に合わせ、子どもから大人まで楽しく踊りを披露しました。



高校生がまちづくり提案 つくば秀英高と筑波大、当市が連携

つくば秀英高校と筑波大学が連携し、まちづくりについて提案する「高大連携」事業が8月2日から4日の3日間に行われました。参加した同校の生徒たちは、筑波大生の指導の下、市内を見学したり、各種統計データなどを駆使し、高校生ならではの目線から、当市のPR方法などを提案。当市から同校に通う中島千嘉さん（2年）は「良いところがたくさんあることを知った。PRしていけば近隣にも負けられない良い市になると思う」と笑顔を見せてくれました。

走り継ぐ平和の願い 「茨城県反核平和の火リレー」開催

茨城県反核平和の火リレー（主催：茨城県平和友好祭実行委員会）は、核の危険性や平和の尊さを県民に訴えながら「平和の火」を持ったランナーが、県内44市町村を走りつなぐもので、今年で31回目を数えます。7月31日には伊奈庁舎玄関前でセレモニーが行われ、山田副市長が「今後も日本の恒久平和に貢献できるよう努力する」と述べ、同実行委員会から平和行政推進の「要請書」を受け取りました。



協定書を手にする関東地区委員長の関川恵一氏せきがわけいいちと片庭市長

提供で避難生活を支援 災害時の物資提供協定を締結しました

全国の豊店で構成される「5日で5,000枚の約束。プロジェクト実行委員会」と当市は7月14日、災害時における物資の提供に関する協定を締結しました。この協定は、大規模な災害が発生し、避難所での生活を余儀なくされた方々のために、希望する枚数の豊を無償提供してもらい、避難生活を支援するものです。